

1 研究テーマ

「一人一人が表現の喜びを味わう図工学習のあり方はどうあったらよいか」

2 研究課題

制作への見通しが持てず、教師からの指示がないとすすめられない子どもたちがいる。また、写実的な表現＝上手という価値観からぬけ出せず自分の表現に自信の持てない子どもたちがいる。彼らが、「思わず表現したくなる素材と出会い、十分にふれあって、自分の願いを持って制作に取り組む中で、一人一人が表現の喜びを味わえる」であろうという仮説を立て（１）版画の材料・用具・表現テーマの吟味（２）版画の特性に十分ふれられる展開の工夫を重点に研究し、実証授業を行った。

3 指導の実際

研究授業実施日 平成19年11月7日

会場校 森上小学校 授業学級 4年仁組 授業者 西澤俊輔教諭

題材名 「初めての木版画との出会い～木の葉に思いをこめて彫る」

指導者 信州大学教育学部教授 橋本 光明 先生

(1) 材料・用具・表現のテーマの工夫について

版木 彫りの良さを感じ取れるシナベニヤを選び、途中で投げ出さず、隅々まで彫りきることでできるであろうA5サイズの板にした。

彫刻刀 さまざまに表情のある線が彫れる小丸刀一本で彫り上げる。

モチーフ 手にとって観察でき、造形的な美しさのある木の葉を描く。

(2) 展開の工夫

試し彫りと試し刷り。(彫り跡が白く刷れることを知り、様々な線の表情を楽しむ。)

葉っぱを彫った木版画作品の鑑賞。(様々な彫り方の作例から、イメージを持つ。)

葉っぱと出会い、自分の葉っぱを見つける。

黒画用紙に白いクレヨンでスケッチする。(しっかり観察して描く。)

学習カードに表現の願いを書く。(表現の願いを具体化する。)

青い版木にカーボン紙をつかって下絵を転写する。

下絵を見ながら、版木の上に白のクレヨンで葉を描く。(彫り跡を意識して描く。)

小丸刀で彫る。(表現への願いをこめて丁寧に彫る。)

試し刷りする。修正彫りする。本刷りする。

作品鑑賞する。(自分の願いや工夫を発表。お互いの作品の良さを見合う。)

4 研究の成果

(1) 材料・用具・表現のテーマに関わって

教材研究・場の設定等十分に準備された授業を通し、一人一人の子どもたちが人まねでないそれぞれの表現を追求できた。次年度以降の木版画制作への意欲的な追求につながる良い出会いの題材となった。

小丸刀のみの使用は、技法習熟のために大変有効だったけれど、表現目的に合わせて彫刻刀を選択できる余地も必要ではないかとの意見も出された。

(2) 展開の工夫に関わって

試し彫りの体験や、作例（彫り方・版木・刷り上がった作品を対比したもの）の鑑賞や、彫り跡を意識した板への描画などを通して、彫りのイメージをしっかりと持てていたため、迷いなく、彫ることに没頭することができた。

画面構成への意識には個人差があった。木の葉に込めた思いを版画としてより効果的に表現するため、背景の工夫や画面全体の黒白のバランスへの意識づけがさらに必要だった。

(3) 講師からは、「素材の定義・日本の伝統文化としての版画・発達段階に応じた具体的な支援のあり方など」多角的な視点からご指導いただいた。

5 来年度への課題

(1) 「図工（物作り）は好きだが、絵は嫌いだ。」という子どもたちが、描くことの楽しさを実感する支援のあり方の研究が必要である。（表現方法を身につけ、写実の欲求を満たす指導。「上手な絵＝写実的絵＝良い」から「自分らしさ、自分の思いや考えが出ていることの満足感」へと変えていく指導。等考えられる。）

(2) 「やってみたいな」と『夢』が持てる題材との出会い。自分が表現したいイメージを『見返し修正』しながら、少しずつ完成に近づけていける学習過程のあり方。子ども同士の『学び合い』の場面の設定。等研究を深めたい。

(3) いくつかの題材を通して、一人の子の成長や変容を継続的に考察する研究方法についても検討したい。

(4) 小学校での学びと中学校との学びの関連について継続研究ができると良い。

6 要望事項

(1) 公開授業を担当する授業者と共に研究する推進委員会であることはもとより、子どもたちの実態から授業を構成するためにも、授業者の研究体制を大切にしながら、共に研究を深めていきたいと願う。